まなびめ 最新情報はWeb版で更新中です。
http://www.sasappa.co.jp/manabinome/

1 JAN

サンデーサイエンス「入浴剤の科学」
1月20日(日) 10:00▶11:30
場所 仙台市科学館 2階 第4実験室
主催者 仙台市科学館 連絡先 TEL 022-276-2201
URL http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/

【日本の古典に親しむコース】おくの細道を読む
1月20日(日) 10:30▶12:00 20日から全5回 Web
場所 仙台文学館講習室
主催者 仙台文学館 連絡先 TEL 022-271-3020
URL http://www.lit.city.sendai.jp/

2 FEB

楽しい化学実験室「水とそのはたらき」
2月 2日(土) 10:00▶11:30
場所 仙台市科学館 2階 第4実験室
主催者 仙台市科学館 連絡先 TEL 022-276-2201
URL http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/

たんけん資料館（れきみんバックヤード・ツアー）（2）
2月9日(土)・10日(日)
場所 仙台市歴史民俗資料館
主催者 仙台市歴史民俗資料館 連絡先 TEL 022-295-3956
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/

季節の食材を石器や土器で調理し縄文なべを作り食べる体験など（縄文生活体験）
2月16日(土)
場所 仙台市縄文の森広場
主催者 仙台市縄文の森広場 連絡先 TEL 022-307-5665
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/jyoumon/event/h19.html

第31回東北大学サイエンスカフェ「アンモナイトが語る大陸移動 ～古生物地理のロマン～」
2月22日(金) 18:00▶19:45
場所 せんだいメディアテーク1F
主催者 東北大学広報課 連絡先 TEL 022-217-4977
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

3 MAR

近代日本の形成とスコットランド
3月 8日(土) 14:00▶15:30
場所 東北学院大学 土樋キャンパス8号館5階 押川記念ホール
主催者 東北学院大学英語英文学研究所 連絡先 TEL 022-264-6401
URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/

れきみん講座（5）「学芸員の仕事を知りたい人のために」
3月15日(土)
場所 仙台市歴史民俗資料館
主催者 仙台市歴史民俗資料館 連絡先 TEL 022-295-3956
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimin/

※これらの情報は各大学・研究施設などの公開情報をもとに掲載したもので、当社の責任で開催を保証するものではございません。日時、内容に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問い合わせ先へご確認下さい。

参加体験記 「学び」イベントに行ってきました

＜第27回 東北大学サイエンスカフェ＞
■テーマ 「炭素から新素材を作り出す」
東京工業大学大学院理工学研究科教授 榎 敏明
「折れ曲がる電子製品を作る」
東北大学多元物質化学研究科教授 宮下 徳治
2007年10月27日（土）18:00～19:40 仙台市科学館

Crepuscule Câfe の白ビールを目当てにせんだいメディアテークへ行ったときのこと。大勢の人々が見入っているプロジェクターにはなつかしの化学式。H_2SO_4？ なんだっけ？ と首をひねっているところを、受付の方に促されるまま参加したのが東北大学サイエンスカフェ。今回は「折れ曲がる電子製品を作る」「炭素から新素材を作り出す」というテーマ。

学生時代にもう少し物理や化学を勉強すべきだったと悔やむシーンはもちろんあるけれど、サポーターの大学院生さんが疑問に答えてくれるので安心。参加者の年齢はさまざま。いろいろな人たちと「科学」をテーマにお話出来る機会は病みつきになるものがありますよ。

「実用化は可能だが製品化は難しいのです。」とは今回の講師である宮下徳治教授の言。使えても収益が上がらないから製品にならない、ということは結構あるそうです。うーんもったいない。 （青葉区・ひろ）

創刊へ向けて

15世紀中葉、グーテンベルクにより発明された金属活字版印刷術は、それまで一部の階層や職種に占有される状況が続いていた知の世界を、一般市民へと開放する役割を担いました。現在、印刷を含むメディアは電子技術により、表現能力も通信能力も驚異的な進歩を見せています。私たちは、パソコンの普及により様々な情報を受容するだけではなく発信するなど、メディアを活用することができるようになりました。一方、その功罪が世論の耳目を引くことも多くなっています。社会生活の中に、メディアが友好的に機能するようにしたいものです。

「学術論文の印刷を仙台の地で」———すべての欧文学術論文印刷が東京と京都でのみ可能であった当時、東北帝国大学の先生方からの熱望に応える形で、1921年に創業した笹氣出版印刷の歩みに、明確な使命が加わります。以来、「学術書」印刷を通し、研究成果発信の現場に携わってまいりました。その長年の経験から、最先端の研究が私たちのすぐ身近で行われていること、その内容はとても知的好奇心をくすぐるものであるとともに、実は市民の暮らしに密接なものであることを感じています。最近、研究教育機関・各種学会などによる研究成果の社会還元、地域における知的世界のリーダーとしての活動が、活発に行われる傾向が見られます。一方、真理を愛し芸術を愛する人たちの学びへの意欲は強く、新たに「学び」の世界に参加する皆様も増えてくることでしょう。

このような歴史と現状を背景に学術印刷に携わる自らの課題として、紙版とウェブ版による「学術の世界と市民をつなぐ情報誌・まなびのめ」を発刊することと致しました。心に芽生えた「学び」の想いを、みんなで大切に育てていく情報誌にしたいと思います。内容は、市民向けの学術イベント情報と、様々な分野における最先端の研究者紹介記事を中心に紙面を構成いたします。また読者の皆様から、参加したイベントへの感想や、学術の世界への発言などを寄せていただき、掲載したいと思います。もちろん学術イベント情報も募集いたしますので、お寄せください。

準備号により研究調整をして船出までこぎ着けたいと思います。読者の皆様には趣旨にご賛同いただき『学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」』に絶大な応援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2007年12月5日
「まなびのめ」編集部

http://www.sasappa.co.jp/manabinome/

Web版「まなびのめ」では
- より豊富なイベント情報
- イベント会場への地図やアクセス方法
- 編集部員の生の声 "編集部だより"

等々のコンテンツをご用意してお待ちしています。
今すぐあなたもアクセス

応募先／問い合わせ先
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付 電話受付時間 10:00～16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

まなびのめ
学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」創刊準備1号 ／ 発行日 2007年12月5日
企画・編集 笹氣出版印刷株式会社「まなびのめ」編集部 ／ 発行 笹氣出版印刷株式会社
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号 Tel 022-288-5555 Fax 022-288-5551
E-mail: manabinome@sasappa.co.jp Web版: http://www.sasappa.co.jp/manabinome/

「気」になる「氣」・・・常用漢字の「気」を正字の「氣」と表記しています。漢字の世界は広く深くそれはそれは興味深い世界なのです。「氣」にしてみると新しい「まなびのめ」を見つけることができるかもしれません。

仙台発研究 学術の世界と市民をつなぐ情報誌 Web版も充実

まなびのめ

学びの庭におじゃまします

「音楽と医学と工学が出会うところ」

東北大学未来科学技術共同研究センター 音楽音響医学創製分野 教授
東北大学大学院医学系研究科 音楽音響医学分野 教授
東北大学病院 音楽療法室 室長

市江 雅芳 先生

読者プレゼント
著書『音楽でウェルネスを手に入れる』を3名様にプレゼント

- これからの主な「学び」イベント（カレンダー）
- 「学び」イベントに行ってきました（参加体験記）

創刊準備号
1
2007.12

FREE ¥0 ★ご自由にお持ち帰り下さい。

この印刷物は適切に育まれた森から生まれたFSC認証紙と環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています。
Mixed Sources Product group from well-managed forests and other controlled sources www.fsc.org Cert no. CU-COC-805208 © 1996 Forest Stewardship Council
PRINTED WITH SOYINK Trademark of American Soybean Association

これからの主な
「学び」イベント

12 DEC

脳カフェ：杜の都で脳を語る
12月16日(日) 13:30▶17:30
場所 せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア
主催者 東北大学脳科学グローバルCOE 連絡先 TEL 022-717-7902
URL http://sendaibrain.org/

この度、東北大学脳科学グローバルCOEでは、脳科学に関する市民との交流の場として『脳カフェ：杜の都で脳を語る』を開催いたします。脳科学を専門とする教授による市民向けの講演、若手研究者による展示・体験コーナーを予定しています。カフェの名前のとおり、温かいコーヒー（先着250名様・無料）を用意してお待ちしております。（参加費無料・事前申し込み不要）

司会 熊倉 悟氏（NHK教育 サイエンスZERO ナビゲーター）
講演者
瀬名 秀明（作家・東北大学機械系特任教授）「ミトコンドリアと脳のふしぎ」
森 悦朗（東北大学大学院医学系研究科教授）「認知症と脳」

これからの介護福祉ロボット —実用化を加速するみんなの声—
12月 8日(土) 17:00▶18:30
場所 仙台市市民活動サポートセンター（元 日専連ビル）
主催者 東北文化学園大学 連絡先 TEL 022-233-3310
URL http://www.tbgu.ac.jp/koza07.html

第29回東北大学サイエンスカフェ「守れ！ 海中林 —磯焼けってなんだろう?—」
12月14日(金) 18:00▶19:45
場所 せんだいメディアテーク1F
主催者 東北大学広報課 連絡先 TEL 022-217-4977
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

ペガ号による星を見る会
12月15日(土) 19:00▶21:00 他開催日あり Web
場所 台原森林公園記念広場（仙台市科学館第2駐車場）
主催者 仙台市天文台 連絡先 TEL 022-222-6694
URL http://www.astro.sendai-c.ed.jp/

1 JAN

山田上ノ台遺跡出土資料の整理を体験（発掘資料整理体験）
1月12日(土)
場所 仙台市縄文の森広場
主催者 仙台市縄文の森広場 連絡先 TEL 022-307-5665
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/jyoumon/event/h19.html

第30回東北大学サイエンスカフェ「ベトナムからみえる発展途上国経済とグローバリゼーションの真実」
1月18日(金) 18:00▶19:45
場所 せんだいメディアテーク1F
主催者 東北大学広報課 連絡先 TEL 022-217-4977
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

参加体験記 「学び」イベントに行ってきました

＜国際文化研究科公開国際交流プログラム＞
「音楽に見るブルターニュの文化とその現代性」
Culture bretonne et modernité. L'exemple de la musique.
- 2007年仙台におけるフランス・レンヌ年参加事業
- 東北大学100周年記念事業

2007年10月27日（土）13:30～16:30 東北大学川内北キャンパスマルチメディア教育研究棟6F大ホール

レンヌ第2大学教授のイヴ・ドゥフランス先生のフランス語による講演（通訳付き）で、主にブルターニュ地域圏の民族音楽とその音楽による地域復興の歴史のお話でした。参加者は約40名ほど。

ブルターニュ地域圏というのはレンヌを首府とする地域で、もともとは独立した公国として存在していましたが、フランスに吸収された地方です。その際に独自の音楽文化は失われてしまったそうです。50年ほど前から文化の復興が始まり、1980代からフランス政策もパリ中心政策から変わり、地方へ人、モノが還元されるようになったとのこと。

その原動力となったのは地元の人たちの「失われた自分たちの文化を取り戻そう」という思いだということです。

レンヌは仙台と1967年に国際姉妹都市提携をしており、その40周年となる節目に遠い姉妹都市であるレンヌに思いを馳せることができた講演でした。 （若林区・よっちゃん）

学びの庭におじゃまします

実は、私たち市民の身近なところで、様々な興味深い研究が進められています。その研究内容や経緯、研究者の横顔、「学び」に対する想いなどを、研究者ご本人に語っていただくコーナーです。今回ご登場いただく方は、東北大学未来科学技術共同研究センターの市江雅芳先生です。

「音楽と医学と工学が出会うところ」

「音楽で健康に」を解き明かす

私は音楽が大好きで、アマチュアオーケストラでチェロを弾いています。オーボエも吹くし、学生時代には指揮もしたことがある。演奏会は緊張しますし練習も大変ですが、実は私のような音楽好きにとっては、楽器演奏こそが最高の健康法なのです。

例えば管楽器を上手に吹こうとするうちに、自然と腹式呼吸が身につき、呼吸機能が高まります。肺炎をはじめとする呼吸器系の疾患を遠ざけるだけでなく、楽器演奏は視覚・聴覚・運動機能などを総動員しますから、脳も活性化されるのです。音楽が好きであれば、団塊の世代から上の方にも無理なく始められるはず。本格的でなくとも、かつて学校で習ったハーモニカやリコーダーで良い音が出せるよう練習するだけで効果があるんです。

弦楽器なら弦を押さえたり弓を動かすことで微妙な感覚が呼び覚まされますし、打楽器なら、和太鼓を力一杯叩いたり電子ドラムを楽しんだりすればとても良い運動になります。この「音楽健康法」が何より素晴らしいのは、好きで続けられるところ。どんなに効果がある健康法でも、長く続けられないのでは意味がありません。もちろん歌うことや音楽を聴くことも良いのですが、私としては、ぜひ楽器の演奏をお勧めしたいですね。

今年の９月、こうした内容を『音楽でウェルネスを手に入れる』という本にまとめたところ、多くの方に喜んでいただきました。私は研究者であると同時に医師であり音楽愛好家ですから、本当にうれしく思っています。

東北大学病院には、私が室長を務める音楽療法室があります。音楽療法士の方々と共に、小児科、心療内科、肢体不自由リハビリテーション科、そして終末期医療に関わる緩和医療科の先生方がご紹介くださる患者さん方に、医療としての音楽療法を提供するもので、大学病院では全国でもここだけです。

また私は、東北大学大学院の医学系研究科に音楽大学の卒業生を受け入れ、音楽療法の研究と教育に取り組んでいます。院生たちの向学心は高く、人体解剖実習に挑んだり、医学的な研究手法を身につけるなどして、まだ日本では普及していないこの分野を究めようと頑張っています。

領域を越えて未開の分野に挑む

一方、私の今のメインの仕事場は「東北大学未来科学技術共同研究センター」です。産学連携を目的として開設されたこの施設で、私はヤマハ株式会社さんの協力を得て、音楽音響医学という新たな学問分野を創製しようとしています。

病院の音環境改善は重要なテーマの一つで、例えば重症病棟には現在さまざまな機器が並んでおり、常にアラーム音や医療スタッフが動き回る音が響いている。患者さんにとってこうした環境はどうなのかという研究に、今度文部科学省の予算がつきました。研究は、耳の部分にマイクを仕込んだ特殊なマネキンを使って患者さんの聞こえ方を調べることから始まりますから、具体的な成果が出るのはまだ先になりますが、これからの病院のあり方を考える上で必要な研究だと思っています。

他にも、身体の不自由な方や高齢者のための楽器の開発などにも取り組んでおり、音楽と医学と工学という、今まではなかなか触れ合うことのなかった３つの分野が交わるところにある可能性を探ることに喜びを感じています。元々私は、既存の枠にはまるのが好きではなく、まだ他人が手をつけていないことにファイトを燃やすタイプのようです。

実は音楽療法士も、日本音楽療法学会の認定資格であって、国家資格にはなっていません。医療保険や介護保険の対象ではないため、医療や福祉の現場では、ほとんど正規の仕事として認められていないのです。しかし制度ができるのを待つだけでは、制度はできません。実際的な研究を行い、実績を積み上げることを、誰かがやらなければならない。誰もそれをやらないのであれば自分がやる、というのが私の学問研究のスタンスなのです。

振り返れば、私は高校卒業時には工学部を受験して失敗し、浪人して医学部に進みました。どちらの学問分野にも同じくらい思い入れがあった私は、大学卒業時にも迷った末に、機能的電気刺激を研究するため解剖学教室に進みました。コンピュータ制御による電気刺激でリハビリテーションを行うという、当時の最先端分野に興味を持ったのです。

臨床医にという気持ちもあったのですが、これは後に内科医やリハビリテーション専門医として働くことで叶いました。自分の希望を明確に描き、それを持ち続ければ、やがては出会いや機会が得られるのではないでしょうか。私の場合、今ではずっと趣味にしてきた音楽をも研究対象とすることができるようになり、３つの拠点を忙しく巡りながらも大きな充実感を味わっています。

最初から一番好きなことを学ぶ

市民の皆さんが学ぶ際には、時間や環境をはじめ様々な制約があるかもしれません。しかしそうした学ぶ気持ちを、私は心から応援したいと思います。

学びに最も大切なもの、それは好奇心です。モチベーションが低くては、どんなことも続きません。音楽が好きなら音楽で健康増進を図るのが良いように、自分が面白いと思えることを学び究めるべきでしょう。学問・研究でも「しなければならない」ではなく「楽しむ」ことが大事なのです。

「初歩や基礎から始めて徐々に」などと考える必要もありません。自分の興味があることに一直線に向かって行き、そのために必要なことが出て来たら、それは後から学べば良いのです。これも音楽によく似ていて、自分の演奏したい曲があるなら、最初からそれにチャレンジするべきです。そんなことは許さない、という指導者なら、指導者を替えてしまいましょう。

私たちは限られた生を生きています。やりたいことは、やりたいと思っているときにやるのが一番良いのです。そして、結果ではなく過程そのものを楽しめば良いのです。私自身、今から数年前に自分ではどうすることもできない試練に見舞われました。落ち込みもしましたが、一方で「自分のしたいと思っていることに踏み出すことをためらっていてはいけない」という気持ちになることができました。

近年大学や研究者は、研究成果を市民に公開し、地域社会に貢献しようとしています。私も今年４月には、仙台市内で「科学と音楽のレゾナンス」という催し（ＪＳＴプラザ宮城科学技術理解増進イベント）で「音楽とウェルネス」の題で講演させていただきました。このときはプロの音楽家による演奏も行われたのですが、ピアニストの方が子どもたちのためにピアノ線の上に大量のピンポン球を置き、演奏と同時にそれが跳ねるようすを披露するなど楽しい時間になりました。私もこうした機会に、学ぶことに関心を持つ市民の皆さんと触れ合いたいと思いますし、著書を通じて私の仕事が皆さんのお役に立ったり励ましになるのもこの上ない喜びです。

やりたいことを持つ人が増えれば、それは社会のエネルギーにもなります。特に団塊の世代の方々には、「老後」という言葉は似合いません。ぜひ、学ぶことを楽しんでいただければと願っています。

（取材＝2007年10月29日／東北大学医学部１号館「音楽音響医学分野研究室」にて）

東北大学未来科学技術共同研究センター 音楽音響医学創製分野 教授
東北大学大学院医学系研究科 音楽音響医学分野 教授
東北大学病院 音楽療法室 室長

市江　雅芳 先生

《プロフィール》
（いちえ・まさよし）1956年長野県長野市生まれ。信州大学医学部医学科卒業。信州大学大学院医学研究科博士課程修了（医学博士）。東北大学大学院医学系研究科 運動機能再建学分野教授、東北大学病院運動機能再建リハビリテーション科科長等を経て、2004年より現職。リハビリテーション科専門医。

3名様

サンプル 著書を読者プレゼント

近著『音楽でウェルネスを手に入れる』

プレゼントの応募はこちら ハガキ、FAX、メールのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥内容についての感想を添えて編集部（最終頁参照）までご応募下さい。

※当選は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいた個人情報は連絡・発送作業にのみ使用いたします。

応募締切 2008年1月15日